

2 出生

(1) 出生数・出生率

平成28年の出生数は5,300人で、前年の5,551人から251人減少し、出生率（人口千対）は7.7（全国第21位）で、前年の8.1を下回った。出生数、出生率ともに昭和46～49年の第2次ベビーブーム以降、ゆるやかな減少傾向が続いている（図1）。

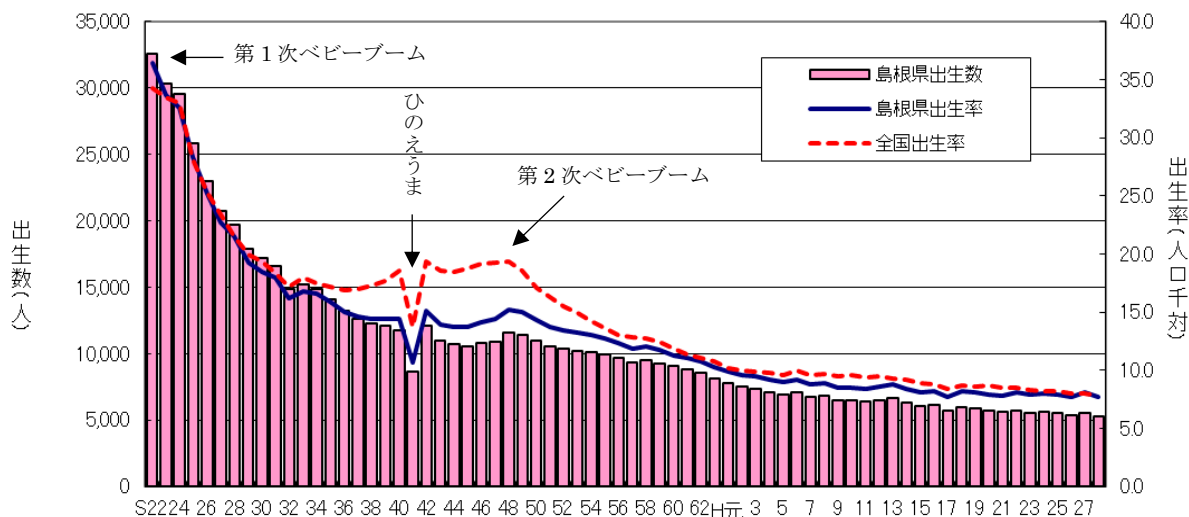


図1 出生数・出生率（人口千対）の年次推移

出生数を母の年齢（5歳階級）別にみると、10代および、40代の各階級では前年より増加したものの、20代と30代の各階級では減少した（表2）。

表2 母の年齢（5歳階級）別にみた出生数

母の年齢	出生数				対前年増減		
	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	26年－25年	27年－26年	28年－27年
総数	5,534	5,359	5,551	5,300	△ 175	192	△ 251
～14歳	-	1	-	1	1	△ 1	1
15～19	62	69	57	70	7	△ 12	13
20～24	524	471	539	472	△ 53	68	△ 67
25～29	1,681	1,659	1,542	1,537	△ 22	△ 117	△ 5
30～34	1,961	1,858	1,985	1,769	△ 103	127	△ 216
35～39	1,113	1,055	1,156	1,152	△ 58	101	△ 4
40～44	190	238	266	292	48	28	26
45～49	3	8	6	7	5	△ 2	1
50歳以上	-	-	-	-	-	-	-

出生順位別にみると、平成 28 年はいずれの出生順位においても、出生数が前年より減少した（表 3）。

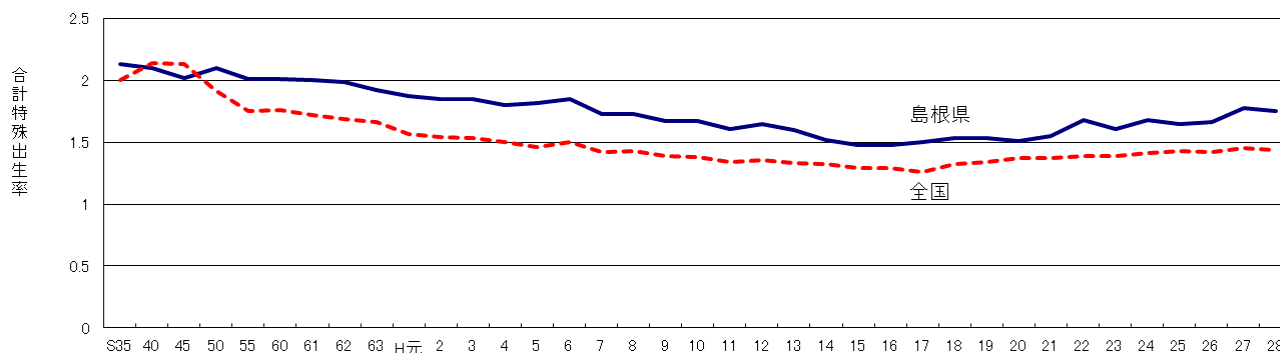
表 3 出生順位別にみた出生数の年次推移

出生順位	出生数				対前年増減		
	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	26年－25年	27年－26年	28年－27年
総数	5,534	5,359	5,551	5,300	△ 175	192	△ 251
第1子	2,331	2,319	2,306	2,190	△ 12	△ 13	△ 116
第2子	1,981	1,940	2,026	1,933	△ 41	86	△ 93
第3子以上	1,222	1,100	1,219	1,177	△ 122	119	△ 42

(2) 合計特殊出生率

平成 28 年の合計特殊出生率は 1.75 であった。全国と比較すると、昭和 50 年以降一貫して島根県が上回っており、平成 28 年の順位は全国第 2 位である（図 2）。

図 2 合計特殊出生率の年次推移



○算出方法

※1 ※2
「(母の年齢別出生数) ÷ (年齢別女性人口)」の 15 歳から 49 歳までの合計

※1 (母の年齢別出生率) = (分子): 「人口動態統計」(厚生労働省)

※2 (年齢別女性人口) = (分母): 「推計人口」(総務省、ただし国勢調査年は国勢調査における日本人口)

年齢（5歳階級）別合計特殊出生率の昭和45年以降の推移を見ると、年により多少の増減があるものの、概ね20歳代では低下傾向、30歳代では上昇傾向にある。平成28年は25～29歳、40～44歳の各階級で上昇し、20～24歳、30～34歳の各階級では下降した。（図3）。

図3 合計特殊出生率の年次推移【年齢階級別内訳】

